

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月25日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02602

研究課題名(和文) 岡倉天心とタゴールの反響するアジアへのまなざし - 植民地主義をめぐる日印の比較研究

研究課題名(英文) Interacted Views towards Asia between Okakura Tenshin and Rabindranath Tagore

研究代表者

外川 昌彦 (Togawa, Masahiko)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授

研究者番号：70325207

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：研究成果の概要として、研究の期間を通して、6本の論文を刊行し、そのうち5本は査読付き論文であり、さらに、現在、1本の論文が査読中となっている。関連する学会や研究会等での報告は、通算19回となり、インドやバングラデシュなどでの英語での報告が11回、日本語での報告が8回である。そのうち、日本宗教学会やAnnual Conference of Asian Studiesなどの学会報告は4回、及び、デリー大学やコルカタ大学、コルカタのアジア協会などでの招待講演は8回となる。図書の刊行については4点を数え、そのうち英語による共著書が2点、単著のブックレットが1点、日本語の共著書が1点である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年の日印関係は、急速な経済成長を遂げるインドと日本との緊密な政治・経済的関係を背景とし、相互の歴史的交流への関心が高まっている。特に、1902年に渡印し9か月滞在した岡倉天心は、近代インドの宗教改革運動を主導するヴィヴェーカーナンダや、ノーベル文学賞詩人タゴールとの交流を深めたことで知られている。本研究は、日印相互に残された史料の対比的な検証から、これまで空白となっていた岡倉のインド知識人との交流の経緯を検証し、その影響の広がりを明らかにする。タゴール生誕150周年やヴィヴェーカーナンダ生誕150周年など、様々な機会に政府機関等では記念行事が行われ、その成果の内外での発信が期待されている。

研究成果の概要(英文)： During the period of research project, six articles have been published on the academic journals, including five peer-reviewed journals, and one article has been submitted and now under reviewing. It was 19 times presented at various conferences and seminars such as Japanese Association for Religious Studies and Annual Conference of Asian Studies, in which eleven times were in English and eight times were in Japanese. The invited lectures were eight times such as at University of Delhi, University of Kolkata, and the Asiatic Society in Kolkata. Four books have been published, in which two books are co-authored books in English, one book is a single authored booklet, and one is a co-authored book in Japanese.

研究分野：地域研究

キーワード：インド 文化交流 ヴィヴェーカーナンダ タゴール 岡倉天心

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年の日印関係は、グローバル・パワーとして台頭するインドとの緊密な政治・経済的な結びつきを背景として、日印間の歴史的な交流への関心が高まっている。特に、1893年のシカゴ宗教会議で活躍したスワミー・ヴィヴェーカーナンダや、1913年にノーベル文学賞を受賞した詩人ラビンドラナート・タゴールは、1902年にインドに9か月滞在した岡倉天心と交流を深めたことから、その歴史的意義が再評価されている。たとえば、タゴール生誕150周年にあたる2011年やヴィヴェーカーナンダ生誕150周年の2013年には、様々な政府機関で記念行事が行われ、応募者も、在日インド大使館、インド外務省、ロンドン大学などでの関連行事に参加し、また、慶応義塾大学の記念シンポジウムでは座長を務めた。そのタゴールやヴィヴェーカーナンダの日本訪問は、日印交流の原点として言及され、インド西ベンガル州政府がタゴール・岡倉記念館を建設するなど、様々な取り組みが見られた。本計画が開始される2016年は、タゴールの初来日から100年目の節目に当たり、様々な機会にその成果を広く内外に発信することが期待されている。

2. 研究の目的

「アジアは一つなり」の言葉で知られる岡倉天心は、1902年に英領インドの首都カルカッタを訪れ、近代インドを代表するヒンドゥー教改革運動家スワミー・ヴィヴェーカーナンダやノーベル賞詩人ラビンドラナート・タゴールらのインド知識人との交流を深めた。その過程で岡倉は、ギリシア美術の影響を離れたインド美術の内発的発展などの新たな視点を獲得し、汎アジア的な仏教文化の共通基盤の広がりを見出すことで、それを『東洋の理想』(1903)などの一連の著作にまとめた。本研究は、日本とインドに残された当時の資料を対比して検証することで、このようなインド世界を媒介として形成される岡倉のアジア認識と、同様に西洋の植民地支配やオリエンタリズムの影響に対して、宗教改革運動や文芸復興運動を通して対処するインド知識人の取り組みとを対比して検証することで、日印の知的交流の歴史的な影響の広がりや、その今日的な意義を明らかにするものである。

3. 研究の方法

岡倉天心は、日本美術院の経営に行き詰まった1901年末にインドに渡り、インドの首都カルカッタを中心に9か月間滞在し、近代インドのヒンドゥー教改革運動を主導したスワミー・ヴィヴェーカーナンダや、近代インドの文芸復興運動をリードしたラビンドラナート・タゴールなどのインド知識人との親交を深めた。しかし、この時の岡倉のインド滞在については、岡倉に同行した堀至徳による日記の発掘以降まとまった史料の発見はなく、インドでの活動の詳細は謎とされてきた。岡倉研究として定評のある堀岡弥寿子や岡倉古志郎らの伝記的研究でも、堀日記以降の史料的研究に大きな進展は見られず、岡倉のインドでの活動の多くが、未解明の課題として残されていた。

他方、インド側では、タゴール生誕150周年やヴィヴェーカーナンダ生誕150周年を切っ掛けに、全集の改訂や書簡の編集など、ベンガル語を中心とした新たな史料研究が進められている。特に、岡倉がインドに滞在した1900年代のインドでは、日露戦争などを通して日本に対する関心が急速に高まり、関係する知識人による様々な著作や講演、書簡などの記録から、アジア認識に関わる岡倉との興味深い共鳴関係を見ることができるとされている。

しかし、当時のインド人による社会・文化改革運動の研究について、これまで欧米の研究者の間では、ベンガル語などの現地資料を用いた研究は限られており、特に日本人との交流の経緯の解明は手付かずとなっていた。また、英語やベンガル語を用いたインド側の研究者の取り組みでは、日本側の研究や日本語の一次資料を参照した研究は限られており、日本側とインド側との対比的な研究は、当時の宗教改革運動や文芸復興運動を評価するうえで貴重な視点を与えるものとなっている。

本計画は、これまで空白となっていたこのようなインド知識人と岡倉天心との交流に新たな光を当てることで、急速な近代化を遂げる日本からアジアへと目を向ける岡倉と、イギリス植民地支配と格闘するインドから日本に期待を寄せるインド知識人との思想的な交流の経緯を明らかにし、その影響の広がりを跡付けるものである。

両国の知的交流の原点を辿る本計画は、急速に政治・経済的な関係を深める近年の両国の結びつきを背景に持つことで、内外の幅広い関心を集めることが期待されている。

4. 研究成果

研究成果として、研究の期間を通して、6本の論文を刊行し、そのうち5本は査読付き論文であり、さらに、現在、1本の論文が査読中となっている。関連する学会や研究会等での報告は、通算19回であり、インドやバングラデシュなどでの英語での報告が11回、日本語での報告が8回となる。そのうち、日本宗教学会やAnnual Conference of Asian Studiesなどでの学会報告は4回、及び、デリー大学やコルカタ大学、コルカタのアジア協会などでの招待講演は8回となる。図書の刊行については、4件を数え、そのうち英語による共著書が2点、単著のブックレットが1点、日本語の共著書が1点である。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 6 件)

外川昌彦「岡倉天心とヴィヴェーカーナンダの反響するアジア美術史観 インド美術史論争におけるギリシア起源説と社会進化論の克服を通して」『日本研究』国際日本文化研究センター、2019年度・掲載決定、査読付

外川昌彦「アナガーリカ・ダルマパーラのブッダガヤ復興運動とインド - 宗教的普遍主義からシンハラ仏教ナショナリズムへの軌跡」『国立民族学博物館研究紀要』、2018年、第43巻2号、pp.1-38. 査読付

外川昌彦「スワームー・ヴィヴェーカーナンダにおける宗教とナショナリズム 仏教とヒンドゥー教の関係を通して見た - 」『南アジア研究』第29号、2018年、pp.60-89. 査読付

外川昌彦「英領インドにおける岡倉天心のブッダガヤ訪問について スワームー・ヴィヴェーカーナンダとラビンドラナート・タゴールとの交流から」『アジア・アフリカ言語文化研究』92号、2016年9月、pp.181-205、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 査読付

外川昌彦「ダルマパーラのブッダガヤ復興運動と日本人 ヒンドゥー教僧院長のマハントと英領インド政府の宗教政策を背景とした」『日本研究』第53集、2016年8月、国際日本文化研究センター、pp.189-230 査読付

外川昌彦 Ekjan Bangali Muslim Sadhikar Bayan (ベンガル語、「あるムスリム女性修行者の物語」) *Bhabnagar: International Journal of Bengal Studies*, Vol.8; Number.9, Bhabnagar Foundation, Dhaka, 2018年6月、pp.957-968、査読無

〔学会発表〕(計 12 件)

外川昌彦 The Bodh Gaya Restoration Movement by Aanagarika Dharmapala and the Japanese Department of Buddhism Studies, The University of Calcutta, Kolkata, India, 14th, August 2018 招待講演

外川昌彦 The Bodhgaya Restoration Movement by Aanagarika Dharmapala and Japanese Buddhist, Annual Conference of Asian Studies in Asia, Indian Habitat Center, Delhi, India, 7th, July 2018

外川昌彦 Okakura Tenshin (Kakuzo) and Rabindranath Tagore in Shantiniketan: Beginning of Tagore's Center for International Exchanges, Department of Modern Indian Languages and Literary Studies, University of Delhi, 26th April 2018 招待講演

外川昌彦 Buddhist Revival Movements in Bengal by Dharmapala, Kripasharan Mahāsthavir, and the Japanese 招待講演、Bengal Buddhist Association, Kolkata, India. 2017年8月5日、8th Karmayogi Kripasaran Memorial Lecture Celebrating 125 year of a Golden Heritage

外川昌彦 The Buddhist Revival Movement by Aanagarika Dharmapala at Bodh-Gaya and the Japanese 招待講演、Jadvpur University, Kolkata, India. 2017年8月4日、International Seminar on Role of Bengal in the Revival of Buddhism

外川昌彦 Okakura Tenshin (Kakuzō) in Shantiniketan: Beginning of Tagore's

Center for International Exchanges, 招待講演、International Conference: An Encounter Between Two Asian Civilizations: Rabindranath Tagore and the Early Twentieth Century Indo-Japanese Cultural Confluence. 2017年3月15日、The Asiatic Society, Kolkata, India

外川昌彦 「英領インドにおける岡倉天心とインド人知識人の交流 - 反響するアジアへのまなざし」招待講演、ディスカバー・インディア・クラブ、2016年12月18日

外川昌彦 「ヴィヴェーカーナンダの宗教観の変遷 仏教とヒンドゥー教」日本宗教学会、早稲田大学、2016年9月11日

外川昌彦 Okakura Tenshin (Kakuzou) in Shantiniketan、招待講演、2016年8月26日、The International Conference on "Tagore and Japan & Various Aspects of Japan and Her Culture "Visva-Bharati University, Shantiniketan, India

外川昌彦 Rabindranath Thakurer Shiksha Bhabna (ベンガル語)、招待講演、2016年8月5日、International Symposium: Tagore's Educational Thought、Uttara University, Dhaka

外川昌彦 「ダルマパーラのブッダガヤ復興運動とシンハラ・ナショナリズム」2016年7月20日、NIHU「南アジア地域研究」京都大学拠点研究グループ、シンハラ研究会共催、京都大学

外川昌彦 「ダルマパーラのブッダガヤ復興運動とシンハラ人ナショナリズム - 英領インド政府とヒンドゥー教僧院長マハントの対応を背景として」2016年6月11日、「宗教と社会」学会、上越教育大学

〔図書〕(計 4 件)

外川昌彦他 Okakura Tenshin (Kakuzō) and Rabindranath Tagore: Beginning of Tagore's Centre for International Exchanges, in *An Encounter Between Two Asian Civilizations: Rabindranath Tagore and the Early Twentieth Century Indo-Japanese Cultural Confluence*, eds by Subhas Ranjan Chakraborty and Shyam Sundar Bhattachary, pp. 122-127, 2018, Kolkata: The Asiatic Society、共著

外川昌彦 *Buddhist Revival Movements in Bengal by Dharmapala, Kripasharan Mahāsthavir, and the Japanese*, Bengal Buddhist Association, Kolkata, India. 2017年8月, Booklet of 8th Karmayogi Kripasaran Memorial Lecture Celebrating 125 year of a Golden Heritage, 総頁数 28、単著

外川昌彦他 The Bodh-Gaya Restoration Movement by Anagarika Dharmapala and the Japanese, Proceedings: *Buddhism in India-Japan Relations*, Bilateral Research Project (JSPS-ICHR, India), 17th March 2017, 総頁数 39、共著

外川昌彦他 「タゴール」名著で読む世界史120』山川出版社、2016年8月、pp.342-344. 共著

〔産業財産権〕
出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

(2) 研究協力者
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。